

製品・サービス動向-国内

■GN オーディオジャパン:スマートパノラマ
4K プラグアンドプレイ会議用ビデオカメラ
発売

(取材：9月20日)

GN オーディオジャパン株式会社 (<https://www.jabra.jp/>) (東京都港区)は、ハドルルーム向け、スマートパノラマ4K プラグアンドプレイ会議用ビデオカメラ「Jabra PanaCast(ジャブラパナキャスト)」を9月20日より発売する。マイクロソフト社の「Microsoft Teams」認定製品。



Jabra PanaCast (GN オーディオジャパン)

GN オーディオジャパンは、デンマーク(コペンハーゲン)を本拠とする業務用およびオフィス向け、コンシューマー向けヘッドセットブランド「Jabra(ジャブラ)」を展開するGN Audio A/S社の日本法人。世界有数の補聴器メーカーの日本法人であるGN リサウンドジャパン株式会社は同じGN オーディオグループ。

2016年には、トラック向けのヘッドセットではNo.1であるVXi Corporation(ブルーパロットブランドを展開)を買収することでヘッドセットのラインナップ拡充を図り、翌年の2017年には音声AIの

audEERING社を買収、そして2019年には、今回発表したJabra PanaCastにつながる会議向けカメラ製品を開発してきたAltia Systems社を買収した。

「GN オーディオグループとしてこの4年を振り返ると売上は相当な勢いで伸びている。今後、新たなステップを目指している。」(GN オーディオジャパン)

Jabraブランドとしては、これまで、コールセンター向け、オフィス向け、一般コンシューマー向けのヘッドセットや、会議室向けのスピーカーフォン(スピークシリーズ)といった製品を販売してきた。そういった中、今回発表されたJabra PanaCastは会議向けのカメラであるため、スピークスシリーズ(スピーカーフォン)のユーザー層と重なる。

Jabra PanaCastは、その本体の大きさにまず驚くはず。「胸ポケットに入るくらいの大きさ。どこにでも持っていける。」(GN オーディオジャパン)しかし、その小さな筐体にもかかわらず性能はパワフルで機能も豊富だ。加えて、特別なドライバーは不要でプラグ&プレイでWindows、MacにUSB(タイプA)接続すればすぐに使える。

13Mピクセルの単眼カメラ3台を搭載し、「ステッチング技術」により、3つの映像をひとつの映像として合成し、自然で臨場感のある、180度の4Kパノラマビューを実現している。また2つのマイクも搭載している。

カメラは、一人、二人、三人など会議室の参加者がカメラに収まるようにその都度、自動で調整する「インテリジェントズーム」に対応している。仕組みとしては、人の目と鼻をAIによって検知することで人の顔を認識(Advanced People detection)し、同時に何人

映っているかをカウントした上で、3台のカメラを組み合わせてインテリジェントズームが働くようになっている。

180度の広画角のため、たとえば集合写真で端の人が見切れるようなこともなく、しかもリモコンフリーのため会議開始時のリモコン操作も不要、スムーズに違和感なく会議に入れる。

しかし3台のカメラはその用途だけではない。2台で参加者を映しつつ、残りの1台を、会議室内にあるホワイトボード撮影に振り分けることも設定で可能だ。これにより参加者全員が収まるとともにホワイトボードも相手にクリアーに映すことができる。

応じている。また、Jabra PanaCast が接続されたパソコンから Vivid HDR や画角、LED、マイクなど本体の各種設定が簡単に行えるようになっている。加えて、ファームウェアなど企業のデバイスの一元管理も対応している。



カメラ画角 180 度 (左)、120 度 (右) の比較

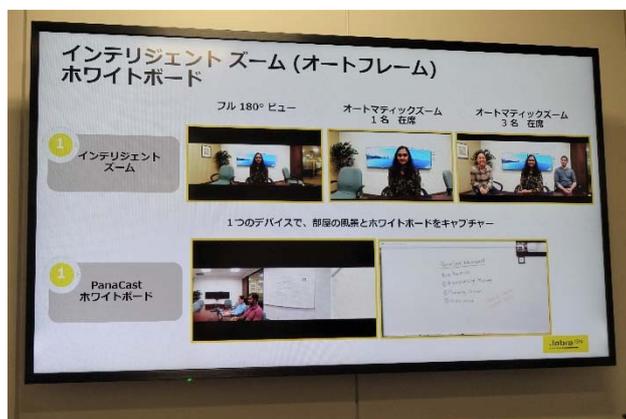
(GN オーディオジャパン)

「180 度に対応することで、会議室の参加者全員が収まり、より自然なコミュニケーションが可能になる。また、120 度などのカメラに比べ死角が少なく会議室のスペースも節約できるメリットもある。しかも、Jabra PanaCast は USB ケーブル 1 本のみでケーブルの煩雑さもなく、また、本体も小さいため場所も全くとらない。」 (GN オーディオジャパン)

Jabra PnaCast は、クラウドビデオ会議など主要なサービスプロバイダーのほとんどに対応しており、企業での導入 (Altia Systems 社時代も含め) は世界で 1,600 社 (その内大学は 200 校) に上るといふ。たとえば Uber や Indeed、カーネギーメロン大学などで大規模に導入されているそうだ。

GN オーディオジャパンによると、世界の会議室の 2% 程度しかまだビデオ会議が浸透していないため、そこに「新たなステップ」があると同社では期待している。スピークスシリーズと組み合わせた Jabra PanaCast も提案していくとしている。

しかし、Jabra PanaCast の可能性はハドルルームだけにとどまらない。搭載するプロセッサはプログラムブルに対応しており、一例では、顔認識の機能を活用した会議室の空き状況を自動で管理するルーム管理



インテリジェントズームとホワイトボード



Vivid HDR ON/OFF の違い

その他の Jabra PanaCast の特徴としては、室外からの光線による白くぼやけることで不鮮明になるハレーションを適切なレベルに調整する「Vivid HDR」にも対

ソリューションへの応用など、映像と AI を組み合わせることでバーチャルマーケットへ Jabra PanaCast の活用を広げていることを考えている。

「プログラムで新たな機能を追加できる既存の Jabra PanaCast に加えて、新たに、ブロードキャスティング用の 6 カメラ搭載のシステムも開発した。ユーザーのエクスペリエンスを向上させるのが我々の狙いだ。」
(GN オーディオジャパン)

今回発売する Jabra PanaCast の本体価格は、108,000 円（税別）。これに会議室での使用を想定したスタンドやウォールマウントなどのアクセサリが別途提供されている。

国内での販売については、既存の Jabra 販売代理店のほか新たにビデオ専門の販売代理店の開拓も進めていく。日本での初年度、販売目標は 2000 台。3 年間で 8,000 台を目指していくとしている。

■シネックスジャパン：「Logicool Tap ルームソリューション」の販売を開始

(9月20日)

シネックスジャパン株式会社 (<https://www.synnex.co.jp/>) (東京都江東区) は、ロジクールの新 Web/ビデオ会議ソリューション「Logicool Tap ルームソリューション」シリーズを「Google Hangouts Meet」用に限定し、9月20日より販売開始する。

今回シネックスジャパンが発表したソリューションは、Intel Core i7-8550U/RAM:8MB/ストレージ 32/HDMI のほか各種端子、などを内蔵した CTL 製「Chromebox」とセットで提供するもの。

導入コストを抑えつつ、手軽に Web/ビデオ会議を実施できる上、顧客が導入時費用を圧縮できるよう利用スペースの広さによって、「小会議室パッケージ」(38 万円*税別、以下同)、「中会議室パッケージ」(57 万円)、「大会議室パッケージ」(65 万円)の 3

パターンから選択できるようになっている。

どのパッケージも、「Tap タッチスクリーンコントローラー」、「Tap パソコンマウント」、Chromebox が含まれるが違いは提供するカメラ。小会議室パッケージには「MeetUp」、中会議室には「Rally」と「Rally マウントキット」、そして、大会議室には、「Rally Plus」「Rally マウントキット」「Rally マイクポットハブ」がそれぞれ提供される。

なお、今回発表のソリューションは、同社が 10 月 9 日に開催する「SYNNEX Inspire Japan 2019 Tokyo」(<https://inspire.synnex.co.jp/>) (東京・六本木)での展示が予定されている。イベントのテーマは「COLLABORATE」となっている。

ビジネス動向-国内

■Chatwork：東京証券取引所マザーズ市場へ新規上場、ビジネスチャットを主軸に展開する企業の上場は初めて

(9月24日)

Chatwork 株式会社 (<https://corp.chatwork.com/ja/>) (大阪府大阪市) は、9 月 24 日、東京証券取引所マザーズ市場へ新規上場した。ビジネスチャットを主軸に展開する企業の上場は初めてとなる。

ビジネスチャット市場は、2022 年度には 230 億円の市場規模となり、年平均 30%で成長する高成長のマーケットであると予測されている。

その中で、Chatwork のビジネスチャットとしての大きな特徴は、誰もが使いこなせる簡単なユーザーインターフェイスと、社外ユーザーとのシームレスなやり取りが可能な「オープン・プラットフォーム型」というところにある。社内コミュニケーションはもちろんのこと、取引先やパートナー、顧客とのやり取りにも同じアカウントを使うことができる。

電気・ガス・水道が生活を支えるインフラであるように、ビジネスチャットは仕事を支えるインフラであ

ると同社では考える。そういった中、Chatwork を安定した品質で、信頼して利用されるサービスでありたい、上場を目指した同社が大きな理由として説明する。

今後も「働くをもっと楽しく、創造的に」というコーポレートミッションのもと、挑戦を続け、Chatwork のサービス拡大並びに企業成長に努めていくとしている。

導入・利用動向-国内

■テレキューブサービス：西武鉄道「高田馬場駅」「所沢駅」の駅構内に働き方改革推進の取組みとして「テレキューブ」を設置

(9月17日)

西武鉄道株式会社 (<https://www.seiburailway.jp/>) (埼玉県所沢市) と株式会社西武プロパティーズ (<http://www.seibupro.jp/>) (東京都豊島区) は、防音型コミュニケーションブース「テレキューブ」を、高田馬場駅および所沢駅の2カ所の駅構内に設置する。埼玉県内ではテレキューブの設置は初めてとなる。

(外観イメージ)

(内観イメージ)



テレキューブ設置イメージ (テレキューブサービス)

テレキューブは、テレキューブサービス株式会社 (<https://telecube.jp/>) (東京都千代田区) が展開している、防音性が高くプライバシーが確保された環境を提供する個室ブース。内部にテーブルと椅子が設置されており、セキュリティが保たれた静かな環境で、資料作成やメールなどの業務、電話・Web 会議などでのコミュニケーションが行える。駅構内に設置することで、西武線利用者や沿線住民にワークスペースを提供する。移動の間の隙間時間を有効活用できるようになり、働き方改革の推進に貢献するとしている。

設置期間は、2019年9月下旬から2020年9月ま

での予定。今回は働き方推進のための実証実験として設置期間を設けているが、利用状況に応じて期間を変更する可能性があるという。

西武グループでは「沿線におけるテレワークの推進」の一環として、「いつでも」「どこでも」「気軽に」働ける場を駅ナカ・駅チカから提供する試みを推進している。西武線利用者や沿線住民に、移動の隙間時間を有効活用する新たな働き方を提案することで、生産性向上や働き方改革に貢献していくとしている。

■シネックスジャパン:PhoneAppli がマイクロソフト社の「Microsoft Surface Hub」を導入

(9月18日)

シネックスジャパン株式会社 (<https://www.synnex.co.jp/>) (東京都江東区) は、株式会社 Phone Appli (<https://phoneappli.net/>) (東京都港区) が米マイクロソフト社の「Microsoft Surface Hub」を導入したことを発表。



PhoneAppli が Surface Hub を導入 (シネックスジャパン)

Phone Appli は、「連絡とれるくん」等コミュニケーションに着目したアプリケーション・クラウドサービスを開発している。2018年2月のオフィス移転の際に、働き方改革を意識したアウトドアオフィスを CaMP (Collaboration and Meeting Place) と名付け、場所に縛られずに状況に合わせて、働く場所と働き方の選択ができるようなオフィス空間を実現した。Surface Hub は、コミュニケーション、コラボレーショ

ンの自由度を高め、Phone Appli の働き方改革を推進するコラボレーションデバイスとして貢献している。

同社によると、導入の際のポイントは、（１）リアルとリモートのギャップをなくす、（２）部門を超えて、必要な時に、自由になるミーティングスタイル、（３）時間や資源の無駄を限りなくゼロへ、（４）働き方の可能性を広げる多彩な機能、などを挙げている。

シネックスジャパンでは、米マイクロソフト社のグローバル・ディストリビュータである米国本社 SYNnex Corporation が Surface Hub の認定ディストリビュータ契約を先に締結していたことから、日本で最初に取り扱いを開始しており、今回の事例を含め Surface Hub 導入による企業の働き方改革に貢献している。

事例詳細：<https://info.synnex.co.jp/l/427802/2019-09-17/2hpkqn>

■テレキューブサービス：小田急電鉄、テレワークのための個室ブース「テレキューブ」を設置

（9月26日）

小田急電鉄株式会社 (<https://www.odakyu.jp/>)（東京都新宿区）は、10月1日から、テレキューブサービス株式会社 (<https://telecube.jp/>)（東京都港区）が展開する防音性の高い個室型コミュニケーションブース「テレキューブ」を小田急線の「経堂駅」・「田町駅」に設置する。

テレキューブは、ビジネスパーソンが周囲に気兼ねなく働けるセキュリティの高いコミュニケーションスペースをコンセプトに作られた個室ブース。ICTを活用した場所や時間にとらわれない柔軟な働き方「テレワーク」の浸透に伴い、移動の合間における資料作成や、外出先でのビジネスに関する電話が必要な際に活用できる。



テレキューブ（テレキューブサービス）

今回、両駅にそれぞれ2台ずつ設置する。働き方改革の推進のための手段として注目が集まる個室ブースを駅に設置することで、駅の利便性向上を図る。経堂駅は「都心における住宅エリア」、町田駅は「郊外における就業エリア」と異なるエリア特性があり、それぞれの利用状況を踏まえて今後の展開方針を検討している。

■Slack Japan：NEC ネットズエスアイ、ビジネスコラボレーションハブ「Slack」を全社導入

（PRTIMES：9月17日）

Slack Japan 株式会社 (<https://slack.com/intl/ja-jp/>)（東京都千代田区）は、NEC ネットズエスアイ株式会社 (<https://www.nesic.co.jp/>)（東京都文京区）がビジネスコラボレーションハブ「Slack」を全社導入すると、発表した。

NEC ネットズエスアイは、Slack の活用による業務の効率化、組織を横断した共創機会創出のため、2018年12月よりSEおよび営業・販売促進部門を中心とした1,300名に先行導入していた。その結果、働き方改革における生産性の向上につながる結果が確認できたため、このたび、全社導入を決定した。

さまざまなクラウドサービスと柔軟に連携するSlackを同社が推進する働き方改革と業務プロセス変革における中核とする考えで、Slackを以下の分野で活

用する。

(1) Slack をマルチデバイスで活用することで、リアルタイムの情報共有およびノウハウを蓄積する。

(2) Slack、「Zoom」、「Box」、「Office365」をはじめとした業務アプリを連携することにより、社内外のビジネスパートナーと安全な業務環境を実現する。

(3) Slack と「Workato」、「Wrike」などの業務アプリと連携することで、現場部門から上長への報告時間を 3 分の 1 に短縮したほか、経費精算にかかる時間を削減する。

(4) Slack を Zoom や Box と連携することにより、会議準備の自動化および効率化を図る。

なお、NEC ネットエスアイでは、働き方改革の一環として、複数ロケーションで勤務する「分散型ワーク」を提唱し、順次オフィスのロケーションを 2019 年 10 月より順次移行する予定。組織がより良いパフォーマンスを発揮するために、業務プロセスの改善と企業文化の改革を促進し、さらに Slack を活用することで、多様な働き方へフィットするコミュニケーションを実現している。

PR

■ヤマハ株式会社



ユニファイド
コミュニケーション
スピーカーフォン YVC-200

<https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/yvc-200/index>

■株式会社プリンストン

USB ビデオソリューション
Polycom Studio



<https://www.princeton.co.jp/polycom/products/roomdesktop/ppush-studio.html>

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報 (10月~11月)

「災害現場の今を共有出来ていますか？災害発生時の混乱時、意思決定のスピードと質を向上」、ブイキューブ 東京オフィス見学ツアー、<スマートグラス体験セミナー>ハンズフリーで現場作業を遠隔支援！、「従来比 1/3 のコストで導入できる” V-CUBE Box 体験セミナー、など

会場：(東京・大阪・Web セミナー)

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■まだまだ広がる、もっと活用！ユーザー様が語る、
「LiveOn」利用率UPのポイント

日時：10月8日（火）14：00～16：30

（受付：13：30）

会場：日比谷国際ビル コンファレンススクエア

（東京都千代田区）

主催：ジャパンメディアシステム株式会社

協賛：株式会社ロジクール、ヤマハ株式会社

詳細・申込：<https://www.liveon.ne.jp/info/2019/p10.html>

■手軽にはじめられるテレビ会議・Web 会議システムのご
紹介～RICOH UCS で、いつでも・どこでも、だれでも・だ
れとでも繋がります！～

日時：10月23日（水）15:00～16:00（受付：14:45～）

会場：リコージャパン（東京都中央区）

主催：リコージャパン株式会社

詳細・申込：<https://www.rcc.ricoh-japan.co.jp/event/seminar/19S043.html>

■働き方改革（ワークスタイル変革）実践事例セミナー
～コミュニケーション・コラボレーション変革からはじめ
る働き方改革～

日時：10月24日（木）14:00～16:00（受付：13:30～）

会場：リコージャパン（東京都中央区）

主催：リコージャパン株式会社

詳細・申込：<https://www.rcc.ricoh-japan.co.jp/event/seminar/19S047.html>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

んと共有しています。よろしければご参照ください。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。
この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと
取材に基づく記事）ですが、CNA レポート・ジャパン
では、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さ

CNAレポート・ジャパン 2019年9月30日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp